

# 令和6年度学校経営計画

東京都立小平西高等学校長

西澤 博光

## 1 スクールミッション

知性と感性に富んだ創造力を育て、自主性と社会性に裏付けられた協調の精神を養い、生命を尊び、健やかな心身を育成します。全ての教育活動において多様な考えに基づいた活動を体験させ、持続可能な社会の形成者としての自律心と国際社会を見据えながら地域連携の視点も大切にした上で、自らの未来を切り拓く確固たる自信を醸成し、学びに向かう姿勢を育成します。

## 2 スクール・ポリシー

### (1) グラデュエーション・ポリシー

学力と人間力（人間性、社会性）を育むとともに多様な考えを受け入れ、地域社会に貢献し国際社会に通用する人を育てる。

### (2) アドミッション・ポリシー

将来を見据え、社会を構成する一員としての自覚を持ち、自ら考えることによって課題解決することに粘り強く努力できる人材を求める。

### (3) カリキュラム・ポリシー

新時代（Society5.0・AIの文明）の要請を受け入れるとともに知・徳・体のバランスを考慮し、生涯にわたって持続的に学ぶことができる教養の土台を身に付ける。

## 3 目指す学校像

(1) 社会の形成者として自律した生活を営む力を育てる学校

(2) 多様性を理解し、他者への尊厳を受け入れることができる人格を育てる学校

(3) 多角的で広い視野を持つグローバルな視点を持ち、国際社会に対応できる人材を育成する学校

## 4 中期的目標と方策

学習指導	<b>【主体的・対話的で深い学びの定着】</b>
	(1) 主体的・対話的に学ぶ姿勢を育成し、生徒を主語とした授業を実践。 (2) 授業力向上に資する校内研修を促進させ、個別最適な学びと協働学習の定着。 (3) 思考力・判断力・表現力を育成し、教科横断的な教育課程を再構築。 (4) 学習支援クラウドサービスや生徒一人1台端末等を活用した学習指導の実践。
進路指導	<b>【将来を見据えた進路の具現化と大学等の進学実績の伸長】</b>
	(1) 教職員全員で進路指導に携わり、意図的で系統的な進路指導体制を構築。 (2) キャリア・パスポートを引き継ぎ、生徒が将来像を描けるようにする。 (3) 模試分析会、三者面談、保護者会等により、卒業後の進路不適合を未然抑止。 (4) オープンキャンパス、インターンシップ等の体験的な活動を必ず実施。
特別活動	<b>【知・徳・体のバランスを取れた指導】</b>
	(1) 生徒による主体的な部活動及び学校行事の企画運営を側面から組織的に支援。 (2) 学習活動と特別活動のバランスを考慮し、生徒の主体性や帰属意識を醸成。 (3) ボランティア活動を通して奉仕の精神を涵養し、社会性を育成。

生活指導	<b>【生徒に主体性をもたせて、自律の精神を促す指導】</b>
	(1) 様々な教育活動の中で視聴覚教材等により SOS の出し方に関する教育を推進。 (2) 生活指導を推進する中で、自己指導能力の醸成を図り、基本的な生活習慣を確立。 (3) 生徒主体に SNS 学校ルールを策定し、情報活用能力の向上及びいじめ未然防止。
防災教育 安全教育	<b>【自助、共助。公助の精神を醸成するとともに自転車安全運転指導を推進】</b>
	(1) 地域と連携した防災訓練等を実施し、防災に対する意識を醸成。 (2) 学校安全計画に基づき地震等の様々な事象に応じた安全対策や避難訓練を計画。 (3) 自転車安全運転指導を促進させ、ヘルメット着用及び安全運転マナーを向上。
学校保健	<b>【生命尊重、健康・安全指導、特別な支援を要する生徒への支援体制を構築】</b>
	(1) 生命の尊重、健康づくりを目的とした安全衛生の確保に係る指導を徹底。 (2) 環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境を整備。 (3) 特別な支援を必要とする生徒への支援体制を学校全体で組織的に構築。
募集活動 広報活動	<b>【学校ホームページを効果的に活用するとともに中学校及び学習塾訪問を促進】</b>
	(1) 教職員が一丸となって学校見学会や学校説明会、中学校及び学習塾訪問を推進。 (2) 学校行事や学校開放事業等を通して、開かれた学校づくりを推進。 (3) 学校 P R 動画を更新し、学校 H P を活用した広報活動を積極的に展開。
学校経営	<b>【働き方改革を推進しコンプライアンス遵守するとともに校舎老朽化に随時対応】</b>
	(1) コンプライアンスの向上と校務分掌間で業務を横断的に連携して遂行。 (2) 教職員全員は、企画型・経営参画型の運営に努め、専門性に応じた業務を遂行。 (3) 教育公務員として法令を遵守し、地域社会から信頼される職務遂行を徹底。 (4) 業務見直しと業務効率化により業務の偏りを解消し、教職員の定数増を実現。 (5) 校舎の老朽化を踏まえ、生徒の健康と安全を確保するための陳情を継続。

## 5 今年度の取り組み目標と方策

### (1) 教育活動の目標と方策

#### ア 学習指導

- ICT を活用し、ペア学習やグループ学習を取り入れ、生徒による主体的な学習活動を実践。
- 探究について、図書館専門員等からの意見も取り入れ、外部人材を積極的に活用。
- 教科内及び教科を越えて他教員の教材研究や指導方法を参考にする観点から、相互の授業参観を促進。年間3回以上の授業を相互参観し。授業参観シートを管理職宛て提出。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について、各教科とも指導方法を構築。
- 学習支援クラウドサービス及び生徒一人1台端末、リアテンドントを活用した教育活動を推進し、業務の見直しと業務の効率化を図る。
- 長期休業中の講習30以上実施するとともに、学期中の補習を適宜実施し、生徒の学びを支援。
- 実用英語検定及び漢字検定等の各種検定指導を促進させ、生徒の学習意欲を活性化。

#### イ 進路指導

- 大学短大進学率65%以上、進路決定率100%を目指し、進路指導部を中心に模試分析会を実施。
- 中学校からキャリア・パスポートを引き継ぎ、生徒自らが将来像を描けるよう進路行事を充実。

- 外部機関と連携した各種講習会を開催するとともに、学力上位層に対する進路指導を充実。
- 各学年の意向に偏重せず、進路指導部が主導して進路企画を立案し、学年間の連携を重視して、系統的な進路指導を構築。
- 入学時から進路実現を意識させた取組を計画し、生徒個々に応じた進路指導をコーディネート。
- 大学短大等の進学指導だけでなく、就職指導や公務員試験対策、看護・保育・福祉系の進路指導にも幅広く柔軟に応じ、生徒の自己実現を支援。
- 多様な進路希望に、的確に対応することができるよう教員向けの校内研修を企画・運営し、生徒一人一人の実態に即した進路指導に繋げる。

#### ウ 特別活動

- 体験、交流、探究ができる特別活動を企画し、社会人に向けての人間性や社会性を育成。
- 部活動加入率 80%以上を目指すとともに、部活動に準ずる活動とボランティアとしての体験的な活動の機会を生徒に促し実践させる。
- 生徒が主体となって帰属意識が保てるように、生徒による企画運営を側面から組織的に支援。
- 部活動の所属意識を高める活動を企画し、異校種の学校や地域社会との連携を計画。

#### エ 生活指導

- 生徒が自ら考え、進んで規則を守っていけるような規範意識を醸成。
- 校則の在り方を生徒とともに検討し、スマホ等の使用方法等について、生徒心得に反映させるとともに、視聴覚教材等を活用して SOS の出し方に関する教育を推進。
- 正しい生活習慣を醸成させるため、生活指導部を中心に教職員全員で、身だしなみの乱れや遅刻指導、スマホ等の不適切な使用について、粘り強く指導を継続。その際、なぜ身だしなみの乱れや遅刻がいけないのか等を生徒に考えさせるように努め、生徒の自己指導能力を醸成。
- 学校全体としての年間延べ遅刻数を 2,500 件以内とし、学級担任と生活指導部を中心に、教職員全員で指導する体制を構築。
- 生徒主導で SNS 小平西ルールを改訂するとともに、いじめを未然に防止するため、あらゆる教育活動の中で多様性と共通性に触れ、人権尊重の理念のもと、思いやりの心を醸成。

#### オ 防災教育・安全教育

- 学校安全計画に基づき地震、火災、風水害、ミサイル飛来を想定した Jアラート等、様々な事象に応じた安全対策や避難訓練を計画し、自助、共助、公助の精神を醸成。
- 防災教育推進委員会を年 2 回実施し、具体的な助言を踏まえて、地域と連携した防災訓練や避難訓練を企画・立案・実施。
- 教職員自らが範を示し、自転車安全運転指導を促進させヘルメット着用及び安全運転マナー向上。

#### カ 学校保健

- 学級担任等と保健室が綿密に連携して、潜在的に課題を抱える生徒への支援体制を構築。
- 緊急時の連絡方法及び対応手順を把握する等、学校全体での緊急時のシミュレーションを確認。
- 学校独自で任用する介助員の適切な活用について検討し、コンディションレポートの運用を工夫するとともに、教育相談委員会を年 5 回以上開催。

- 充実した学校生活に資する環境の整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境を整備。
- 関係機関と連携して、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を学校全体で組織的に構築。
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、本校におけるインクルーシブ教育を確認し、学校生活支援シート及び個別指導計画の作成と活用を検討。
- 適切な運動習慣を確立させ、睡眠、休息、食事の摂り方等の生活習慣を見直させ、がん教育や性教育など健康に関わる課題を克服し、生涯を通して、健康で活力に満ちた生活デザインを確立。

#### キ 募集活動・広報活動

- 学校PR動画をリニューアルするとともに、学校見学会、学校説明会、校外の進路説明会、校内の個別相談会を教職員全員で企画・運営。
- 在校生による中学校訪問は100校以上、教職員による学習塾訪問を120か所以上実施。
- 学校ホームページを250回以上効果的に更新し、生徒の充実した学校生活の様子を発信。
- 学校行事に、近隣の住民や小中学生を招待し、本校の教育活動と生徒の様子を公開。

#### ク 学校経営

- 生徒の実態を鑑みた教育課程の見直しと各教科の状況を見通した教員の再配置及び加配の申請。
- 合理的かつ効果的・効率的な視点を重視した生徒による授業評価の実施を検討。
- 校内で落ち着いて自習できる学習スペースを確保する等、生徒の学習環境の整備を検討。
- 教育公務員として法令及びコンプライアンスを遵守し、体罰等の非違行為を禁止。
- ライフ・ワーク・バランスを念頭に置いた業務見直しと業務効率化により業務の偏りを解消。
- 校舎の老朽化を踏まえ、生徒の健康と安全を確保するための都教育委員会への陳情を継続。
- 地域からの信頼が得られるように「受容・傾聴・共感」の態度で誠実に丁寧に接遇。
- 校内DXの推進に向けた校内研修等に積極的に参加し、知識・技能の向上に努める。

### 6 今年度の重点目標と方策

令和6年度は、特に以下のことについて、重点的に取り組む。

#### (1) 主体的・対話的で深い学びの実現

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に資する取組を積極的に取り入れ、知識・技能の基礎基本の定着と生徒及び保護者からの授業満足度の向上を図る。

#### (2) 意図的・計画的で、系統的な進路指導体制の構築

ア キャリア・パスポート等の活用により、生徒が自らの適性を知り、将来の夢を描かせた上で、様々な体験活動を取り入れる等の系統的なキャリア教育を推進。

イ 各学年の意向に偏重せず、進路指導部が主導して進路企画を立案し、学年間の連携を重視して、系統的な進路指導を構築。

#### (3) 画一的な生活指導の実践

生活指導部を中心に教職員全員で、身だしなみの乱れや遅刻指導、スマホ等の不適切な使用について、粘り強く指導を継続。その際、なぜ身だしなみの乱れや遅刻がいけないのかを生徒に考えさせるように努め、生徒の自己指導能力を醸成。

#### (4) 組織的な募集活動・広報活動の徹底

教職員が一丸となって学校見学会や学校説明会、校内外の進路相談会、中学校及び学習塾訪問を推進するとともに、学校PR動画を更新し、学校HPを活用した広報活動を積極的に展開。

#### (5) 教育課程の点検及び見直し

生徒の実態を鑑みた教育課程の点検と見直しを各教科で進め、生徒の視点に立った編成を検討。

目標項目		令和6年度目標値	実績値	
			令和4年度	令和5年度
学習指導	ICTを活用しグループ学習を取り入れ、主体的な学びであると回答した生徒の割合	75%以上	67.1%	78.1%
	講習や補習の充実度（生徒）	75%以上	69.9%	77.8%
	実用英語検定準2級以上合格者	40名以上	42名	47名
	漢字検定準2級以上合格者	10名以上	6名	15名
	自習室利用者数	1,000名以上	800名	1,121名
進路指導	進路指導満足度（生徒）	80%以上	80.9%	84.5%
	大学・短大合格者数	130名以上	133名	154名
	日東駒専レベル以上大学合格者数	12名以上	18名	13名
	就職決定率	90%以上	100%	100%
特別活動	学校行事満足度（生徒）	80%以上	87.0%	91.4%
	部活動加入率	80%以上	72.0%	71.6%
	上位大会進出（都大会ベスト32以上）	5部以上	3部	4部
	地域貢献活動回数	5回以上	2回	4回
生活指導	自己指導能力の実現度（生徒）	90%以上	90.7%	93.0%
	年間遅刻延べ回数	2,500件以内	6,991件	5,380件
	いじめ問題への対応度（生徒）	80%以上		87.0%
募集活動・ 広報活動	学校ホームページ更新回数	250回以上	164回	295回
	中進対第1志望の倍率	1.30倍以上	1.00倍	1.40倍
	推薦入試の応募倍率	3.25倍以上	3.07倍	3.64倍
	一般入試（学力一次）の応募倍率	1.30倍以上	1.27倍	1.50倍
	学校見学会・学校説明会等の参加者数	2,200名以上	1,935名	2,476名
学校経営	学校生活の充実度（生徒）	80%以上	77.4%	86.9%
	学校教育への満足度（保護者）	80%以上	86.0%	87.7%
	教職員の働き方改革（教員）	75%以上		64.9%